μυστήριον
ミュステーリオン

知っておきたいキリスト教のことば （30）

奥義 おくぎ

「奥義」という言葉は、現在聖公会の礼拝で使われている新共同訳聖書では、旧約聖書の中にだけ見られます。以前の口語訳聖書では、新約聖書にもあったのですが、新共同訳聖書では同じ箇所が、「神秘」と訳されています。

「奥義」の一般的な意味を調べてみますと、「学芸・武術などの奥深い肝要な事柄、極意」（広辞苑）とありました。映画や漫画でもよく描かれる、主人公が苦労し、努力して、ようやく到達する高い目標点のようなイメージでしょうか。

しかし聖書がいう「奥義」は、そのような努力をする一部の人たちに与えられるものではありません。「秘密」という意味合いの方が強いのです。

この「奥義」は、普段は隠されていてわからないものですが、神さまが啓示することによって、わたしたちにも理解し、把握することが可能になるのです。神さまの側に主導権があるのであって、わたしたちの知的な努力や修行などには、一切関係ありません。

新約時代のヘレニズム世界においても、また現代のわたしたちの周りにも、密儀宗教というものは多くあります。そこではすべての秘密は入信者にのみ明らかにされます。

しかし聖書の語る福音は、イエス様の全生涯を通してすべての人に明らかにされました。イエス様は神さまによる支配が差し迫っていること、そしてそれが神さまの永遠の目的であることを告げられました。それはキリスト者のみならず、すべての人たちに示されているのです。

そのことを強調するために、「奥義」という自分たちの努力を連想させる言葉ではなく、「神秘」と訳すようになったのかもしれません。

次回は「教え」です。お楽しみに。

「エデンの園」
エラストゥス・ソールズベリー・フィールド
（1805～1900 年）

そこでイエスは言われた、「あなたがたには神の国の奥義が授けられているが、ほかの者たちには、すべてが譬で語られる。

（マルコによる福音書 4 章 11 節/口語訳）